

東日本大震災

被災地からの「命言集」

来自灾区的生命呼唤

~《命言集》~



2011年3月11日(平成23年)14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生した。地震の規模はマグニチュード 9.0で、我が国周辺における観測史上最大の地震であり、これに伴う津波により、岩手、宮城、福島を3県を中心に多くの尊い命が失われた。この未曾有の災害、「東日本大震災」から2年が経過した今なお、被災地では厳しい生活が続いている。

震災直後、多くの日本人が理性的な行動をとり、「人と人の絆」を強く意識し、「かけがえのない命」を愛おしんだ。

海外メディアは、その日本人の姿に「尊厳と誇りの国」「不屈の日本」「人間の連帯」といったような言葉で大きな賞賛と感嘆をもって報じた。

にもかかわらず、学校で社会で「いじめ」や「自殺」、「体罰」という名の「暴力」など、「命」や「人間の尊厳」がないがしろにされる事象が絶えないのは何故だろうか。我々日本人は改めて震災から学ぶことがあるのではないか。

こうした思いから、被災地の方や、被災地支援に携わった県人からの協力を得て、「命」の言葉集として一つの冊子とすることにした。

黒い波

黒色海嘯～震災発生、避難、捜救生存者～

～震災発生、避難・捜索～



遭海嘯袭击时刻停止的钟表
宫城县东松岛市立鸣瀬第二初级中学

津波到達時刻で止まった時計
宮城県東松島市立鳴瀬第二中学校



じしんがあったとき、
ぼくはようちえんバスの中でした。
バスがよこにゆらゆらといっぱいゆれて、
すごくこわくてしょうがなかった。

ママのかおが見えたとき、
とってもうれしかったです。

地震发生时,我正坐幼儿园的班车上。
突然感到班车摇动不止,我简直怕得要命,那一刻实在令人恐惧。
当我见到妈妈的时候,感到非常的高兴。

宮城県岩沼市立玉浦小学校2年 梅村 宥我
宮城県岩沼市立玉浦小学二年级 梅村宥我



黒い波逃れ震える小さな手
母のぬくもり心に灯す

海啸中死里逃生,吓得双手发抖
妈妈温暖的怀抱,照亮孩子的心灵

宮城県女川町立女川第二小学校6年生担任 西村 英恵
宮城県女川町立女川第二小学六年级班主任老师 西村英恵



「一人でも多くの命を救いたい」
という気持ちに
国境や組織の違いなど
関係はありません

“尽可能挽救多一条生命”
的精神是不分国界和组织

徳島県警察本部警備部 平松 淳
徳島県警察本部警備部 平松淳



人生の機微に触れる仕事に就きながら
生への思いをもった人々の
あまりにも理不尽な死に直面し
言葉を失った

即使所从事的工作触及人生际遇的微妙之处，
当面对曾经对生活充满无限憧憬的人们痛苦不堪地死去，
却失去了言语

徳島県警察本部刑事部 南谷 雅彦
徳島県警察本部刑事部 南谷雅彦



重機で土砂を掘り起こそうとしたとき
被災した子どもたちのことが
脳裏に浮かび
操作レバーを持つ手が震えた

用重型机械正要掘起砂土时，
脑海里不断浮现出受灾孩子们的身影，
握操作杆的双手也在颤抖起来

陸上自衛隊徳島駐屯地第14施設隊隊員
日本陸上自衛隊徳島駐屯地 第十四施設隊隊員